

高校教科「情報B」をスタートさせて

附属高等学校 松森 弘治

1. はじめに

本校では、平成15年度より実施の教育課程において1, 3年生に「情報B」（1単位）が必修としておかれ、普通教科「情報科」の授業がまず1年生5クラス約200名の生徒を対象に開始された。以下では本校の情報科授業の概要を紹介したい。

本校では、コンピュータ教室のみならず、すべてのHR教室にインターネットに接続可能なパソコンの端末が設置されており、また、すべての教室に情報コンセント（インターネットに接続可能）が設備されている。

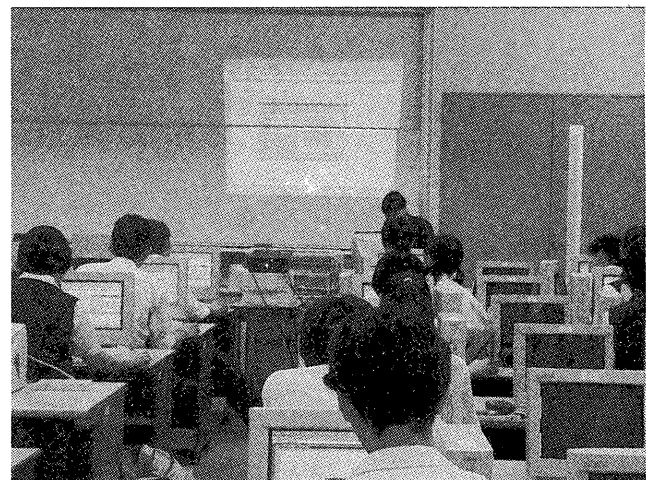
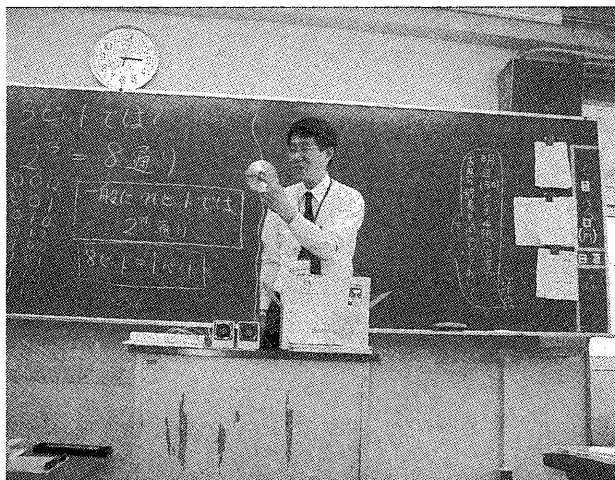
また、Sドライブと呼ぶ、生徒が自由に読み書き出来る領域が校内LANのサーバーに設けてある。これらの領域に生徒は教材を置いたり、課題を提出したり様々な形で利用出来る。

2. 授業内容の紹介

授業時間数の約3分の1をコンピュータによる実習にあてている。そのため、TAとして京都教育大学の社会人入学の学生の方に来ていただいて教官とふたりでチームを組んで指導に当たっている。コンピュータ教室はもちろん、HR教室での授業においても1クラス約40名なので、実習時には2人でも机間巡視をしているとてんてこ舞いである。本年度当初に生徒に情報機器に関するアンケートを実施したが、習熟の度合いは個人差が大きく、個人のwebページを所有し、FLASHによるコンテンツを作成している生徒もいれば、キーボードからの文字入力に対して不安を感じている生徒もいるようなので、課題をこなすのに時間差が出来てしまう。

図1 HR教室での授業「情報量の単位」

図2 コンピュータ教室での授業「グラフ作成」



1学期に実施した内容の主な項目は次のようである。

- ・問題解決の流れと手段
- ・手作業による問題解決
- ・コンピュータのしくみとはたらき

3. 本校の情報科授業の特色

情報の科学的な理解を深めるとともに以下のような特色を持った授業を行っている。

・ML等の利用による情報社会への参画する態度の育成

単に情報技術に関する知識を理解するだけではなく、みずから情報を発信し、情報社会の一員として自覚を持って授業に臨むとともに、実用的なねらいももって年度当初よりML（メーリングリスト）を構築した。次に概要を述べる。本校では生徒個人個人にメールアドレスを割り当てていない。そこで、生徒が経済的な負担なく利用できること等を勘案してFreeML (<http://www.freeml.com/>) という出来合いのMLシステムを利用した。これは最後の数行に広告が入るが、microsoft社のhotmail (<http://www.msn.co.jp/home.armx>) というこれも無料のメールアドレスを使用すれば生徒各自がwebメールを利用することが可能となる。なお、諸般の事情により、携帯電話のメールについてはこれへの転送や利用は現時点では実施していない。FreeMLのMLを各クラスごとに構築し生徒のhotmailアドレスを指導者側で登録した。これを利用して、授業に関するデータや素材を添付ファイルの形で提供したり、生徒の作品の一時的な提出先等の利用にも使える。

また、このMLは授業以外にもクラス内の連絡や交流にも使える。先日はある女子生徒が花火大会の様をカメラ付携帯電話で撮影し、その画像を添付して残暑見舞いとしてクラスに配信した。（撮影者の承諾を得て）ご参考までに紹介する。

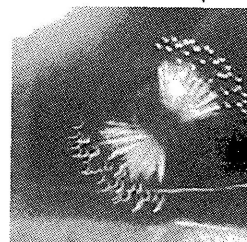


図3 花火

・大学との連携

特別講義等の実施

インターネットの歴史的生い立ちから最新の情報通信技術についてまで幅広く、「情報倫理」と題して、京都教育大学理学科の沖花先生に特別講義をある講座に対して実施した。また、別の講座に対してはプレゼンテーションソフトのマイクロソフトパワーポイントを使用したプレゼンテーションのモデルの演示をやはり沖花先生にしてもらった。



図4. プレゼンのモデルの演示

4. おわりに

1学期は時間の関係でとれなかったが、2学期以降にはコンピュータのハードウェア的な原理を理解する工作やwebページの製作等も予定している。

プレゼンの技能やwebページの製作は他教科の学習とも連携しているし期待もあろうかと思われる。生徒の情報活用能力がますます向上するように各方面からのご意見アドバイスをいただければ幸いである。

謝辞 授業協力をいただいた京都教育大学 沖花 彰先生、小竹芳雄先生に感謝申し上げます。

京都教育大学 機関リポジトリ クエリの森



この文献は、国立情報学研究所において電子化されたものを、本学でテキスト加工したものです。

